

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 森林整備室
評価対象期間	平成21年4月1日～平成25年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分県県民の森施設 (青少年の森、平成森林公園、神角寺展望の丘)	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分市大字廻栖野 外		
	設置目的	大分県県民の森における森林の持つ優れた自然を生かして、保健、休養及びレクリエーションの場を提供し、森林に関する学習活動を促進し、その他森林の利用を増進することにより、県民の健康な生活の確保を図るとともに、森林に関する県民の理解を深める。		
指定管理者	名称	県民の森管理共同事業体(代表団体 公益財団法人森林ネットおおいた)		
	代表者名	理事長 重本 悟		
	所在地	大分市大字古国府字内山1337番地の15		
指定管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の森、平成森林公園、神角寺展望の丘で行う学習活動等の指導、施設の提供、森林レクリエーション等に関すること ・施設の維持管理及び修繕に関すること ・施設の利用受付及び案内に関すること ・施設利用の許可に関すること ・施設利用の促進に関すること 			
料金制度	利用料金	・ 使用料	・ 該当なし	
指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		36
(1)施設の設置目的の達成			
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	20	5	20
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
○ 県民の森全体の利用者数はH21年度は172,664人であり、それ以降はH22年度が175,812人、H23年度が176,310人、H24年度が180,366人と順調に増加しており、また目標指標としているキャンプ場等の有料施設の利用件数については、目標値1,530件に対し、H21年度は1,868件(達成率122.1%)、H22年度は1,934件(同126.4%)、H23年度は1,964件(同128.4%)、H24年度は2,524件(同165.0%)と、1年目以降から全て目標値を上回っており、特に4年目では大幅に増加するなど評価に値する。利用者が増加した主な要因としては、広報活動について、従来の新聞広告・HPとあわせて、さらに情報誌(フリーペーパー)を活用し、PR活動を強化したことが挙げられる。			
○ 利用者の増加を図る取組みについて、自主事業として各種イベントを開催しており、平成森林公園での「さくらまつり」及び「森林ボランティア活動支援事業」では、それぞれ約500人、約200人の参加実績がある。また、H23年度には青少年の森での森林展示館周辺の歩道整備を実施し、車いす使用者の散策を可能とし、さらにH24年度から青少年の森で「ドッグラン」をオープンし、集客への取り組みを強化した。また、サービス改善提案事業として、青少年の森サイクリング道沿いにモミジ等の植栽を実施し、園内環境の向上を図った。			

- 県民の森施設は青少年の森、平成森林公園、神角寺展望の丘の3施設で構成されており、これらの施設は3本の縦貫林道で接続されているため、各施設を有機的に連携するには、日常的な林道の維持管理による動線の確保が重要である。H21年度以降、降雨等により発生した法面の小崩壊による崩土除去及び道路の草刈りなど適切に対処されており、道路の通行止めは発生しておらず、一般者からの苦情等もない。
- 広報活動について、公告媒体の選定には、従来の新聞広告・HPのほか、各イベントの参加年齢層等を考慮して、掲載しており、その結果、レンタサイクル・キャンプ場等について、使用料収入は、H21年度が1,563千円、H22年度が1,592千円、H23年度が1,738千円、H24年度が2,148千円と増えており、また利用件数はH21年度が1,868件、H22年度が1,934件、H23年度が1,964件、H24年度が2,524件であり共に増加している。

(2) 利用者の満足度

①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。

③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。

④利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

20 4 16

【評価の理由】

- 施設利用者へのアンケートを実施した結果、総合評価としては、屋内外で開催するイベントについて、毎年「満足」と「ほぼ満足」が多数を占めており、好評価を受けている。また「楽しかった」「来年も是非参加したい」などの意見が多く、リピータの利用者が増えている。ただし、屋外イベントにおいては、「さくら祭り」では「桜が満開でなくて残念」「桜の満開時期にあわせて開催してほしい」、また「ラベンダー祭り」では「雨で残念です」「できる限り好天の時期を選んでほしい」、などの意見もあり、屋外施設でのイベント開催の難しい一面もある。
- 年間の主要イベントである「さくら祭り」では、H23年度は参加者380名のうちアンケート回答者は192名（回収率51%）、H24年度は参加者614名のうちアンケート回答者は205名（回収率33%）であった。また「ラベンダー祭り」では、H23年度は参加者971名のうちアンケート回答者は736名（回収率76%）、H24年度は参加者1,119名のうちアンケート回答者は653名（回収率58%）であった。アンケート回収率としては充分であり、アンケート結果は利用者の意見を反映したものであると判断される。
- 広報活動について、広告媒体の選定には、従来の新聞広告・HPのほか、生活情報誌（ぷらざ等）にも広告を載せて広報の機会を増やしており、さらにHPの充実として、写真掲載を増やし、記載内容を分かり易くするなどの改善を行い、PR活動を強化した結果、施設利用者が増加につながったと思われる。

2 効率性の向上等に関する取組み

30 22

(1) 経費の低減等

①施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

20 3 12

【評価の理由】

- 施設の管理を一部直営とすることで、経費の低減を図っている。
 - ・多目的広場の草刈り、ラベンダー園の除草などの管理については地元の住民を雇用して実施
 - ・芝刈りについて、業者委託を減らし芝刈り機を購入して一部区域を直営で実施
 - ・道路管理について、小規模の崩土除去を業者委託とせず直営で実施
- 外部委託を行う場合には、2者以上の見積り合わせを行うことで経費の低減に努めている。

(2)収入の増加	10	5	10
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】 ○ 年間使用料収入目標額1,134千円に対し、H21年度は1,563千円(達成率137.8%)、H22年度は1,592千円(同140.4%)、H23年度は1,738千円(同153.3%)、H24年度は2,148千円(同189.4%)と各年度とも目標値を大幅に上回っており、非常に評価できるものである。 ○ 利用者が増加した主な要因としては、従来と比べて広報活動を強化したことが挙げられるが、その他にも、森林ネットおおいたが主催する「森のセラピー」、大分市が主催する「森林セラピー、トレイルラン」など、県民の森が他イベントのフィールドとして活用されることで知名度が高まっていること、またH21年度以降に台風等の気象災害による影響が少なかったことが挙げられる。			
3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30		24
(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況			
①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。	15	4	12
②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。			
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			
【評価の理由】 ○ プロパー職員と嘱託職員などを効率的に組み合わせるなど、基本的に必要最小限の職員ローテーションとしているが、キャンプシーズンの繁忙期(7月～8月)及び来場者数の多いイベント(さくら祭り、ラベンダー祭り)開催時には、森林ネットおおいた本部から応援のため職員を多く配置し、人員不足によるサービス低下が発生しないよう、業務量に応じた体制としている。 ○ 職員が自然観察指導員養成、救命講習などの研修会に参加することで、技術力向上を図った。また、労務作業員に対して草刈り機・芝刈り機の操作整備等の技術指導を行い、安全対策に努めた。 ○ 地域や関係団体等との連携や協働を積極的に行っている。 ・森林ボランティア団体(NPO・地元公民館等)に対する支援活動。 ・ボーイスカウト団体に対する支援活動。 ・大分市のつはる少年自然の家と連携した青少年の森林での学習活動などの支援活動。 ・管理事務所に通じる市道の清掃を地元住民と共同で行った。			
(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など			
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。	15	4	12
②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。			
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。			
⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

【評価の理由】

- 関係法令は遵守されており、個人情報の保護対策としては、法や条例に基づき、情報公開規定・個人情報保護規定・文書等取扱規定などの諸規定を整備しており、日頃から個人情報保護に努め、漏洩等の事故は発生していない。
- 施設の利用受付にあたっては、施設設置条例及び施設利用規則等を遵守し、公平・平等な取扱いを行っている。
- 当初、提出された収支計画に対して、予算執行を確実に実行しており不備等はない。
- 施設点検及び緊急時に対する対応については、安全管理マニュアルを整備しており、毎日、施設点検及びパトロールを実施している。また、台風や豪雨時などで災害が発生する可能性が高い緊急時には、休日を返上して対応している。

【選定委員の意見】

- 関係法令の遵守等の基本的事項や、施設の維持管理にかかる取り組みについても計画どおり実施されており、H21年度以降目標値は達成されており、さらに地域住民とのトラブル等は発生しておらず、これらを総合的に勘案すると、指定管理者が選定時に示した基本方針である、「①県民の公平な利用の確保、②利用者へのサービス、③収入の確保と経費削減、④県との連携」は達成されていると言える。

【総合評価】

合計得点(100点満点)	82	評価ランク(A～E)	B
--------------	----	------------	---

【評価の理由】

- 県民の森施設は山間部に広範囲に点在し、また天候が集客に大きく影響する施設であるため、屋内施設と比較して厳しい管理運営の条件下にもかかわらず、事故等の発生もなく、H21年度以降、利用件数及び使用料収入額が順調に伸びている。さらに利用者による満足度調査の結果、満足度が高く好評を得ており、リピーター客の定着が見受けられる。また、経費の節減に日頃から努めており、予算執行面においても適切に履行されていることから、指定管理者として適切に施設の管理運営を行っているため、評価に値する。

【今後の対応】

- H21年度以降、目標指数を達成しており、利用件数及び使用料収入額が順調に伸びており、引き続き、施設の管理運営を適切に行うことで、学習活動・レクレーションの場としての利活用が期待できるが、5月連休・夏休みシーズン・秋の紅葉シーズンにおいては、自転車・キャンプ場などの施設利用件数が増加するが、一方平日については利用件数が低調であることから、施設の利用促進を図るため、学校教育機関等への営業活動による働きかけが必要である。

【指定管理者評価部会の意見】

- 積極的に広報を行い、自主事業のラベンダー祭りなどは定着しつつあり、利用者数は目標を大幅に上回るとともに、使用料収入の増加につながっていることは高く評価できる。
- 利用者アンケートは現在、イベント参加者のみを対象に実施されているが、そのほかの自転車やキャンプ場などの利用者に対しても、満足度や更なるニーズを把握するためにアンケートを実施してはどうか。
- 各施設が広範囲に点在しているため、利用者がうまく巡回できるよう経路を示す案内板を敷地内外においてさらに整備する等、利便性向上にも工夫して取り組んでもらいたい。